



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.249 2024 March

今月の記事

Top News

- 大学・高専機能強化支援事業令和5年度機能強化会議を開催 1
- 土屋前研究開発部長に名誉教授の称号を授与 3

調査研究

- 研究開発部新任教員紹介 4

質保証連携

- 「国立大学附属病院経営分析ワークショップ」を開催 6
- 「病院経営次世代リーダー養成塾」を開催 7

学位授与事業

学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物

- 令和6年度版『新しい学士への途』及び『学位授与申請書類』の発行等 8
- 資料の請求方法 9

令和6年度学士の学位授与申請に係る申請方法、受付期間及び試験日等 10

認定専攻科に係る教育の実施状況等の審査について

- 4校5専攻を「適」と判定 12

特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査について

- 14校20専攻を「適」と判定 13

機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与関係

認定課程に係る教育の実施状況等の審査について

- 審査対象となった1校3課程を「適」と判定 15

機構の窓

- 会議の開催状況 16

主要行事日程

- Schedule（3月～5月） 17

Top News

○ 大学・高専機能強化支援事業令和5年度機能強化会議を開催

当機構は、令和6年2月7日（水）に、大学・高専機能強化支援事業令和5年度機能強化会議を開催しました。

本会議は、大学・高専機能強化支援事業の学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援、いわゆる支援1に選定された大学による意見交換や情報交換の機会を設け、当該大学の相互の連携等の促進を図ることを目的とし、毎年度、原則1回の開催を予定しているものです。

本事業を開始して初の開催となった今回は、本事業の高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援、いわゆる支援2に選定された大学及び高専や、日本学術振興会において実施している地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に選定された大学にも参加を呼びかけ、登壇者及び参加者全員が学術総合センターに参集し、対面にて実施しました。支援1に選定された67大学から163名、支援2及び地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に選定された11大学から16名の参加がありました。

初めに福田秀樹機構長の開会挨拶及び安浦寛人大学・高専機能強化支援事業選定委員会委員長の挨拶がありました。安浦委員長からは、本事業の目的や背景、初年度の選定状況に関する説明ののち、社会のデジタル化がすべての産業分野で重要視されるなか、大学においてもデジタル教育の充実が求められる点が述べられました。また、将来的な初等中等教育への展開も視野に入れた幅広い人材育成の仕組みの構築に向け、今後の事業を進めてもらいたいとの期待が述べられました。



福田機構長による開会挨拶の様子



安浦委員長による挨拶の様子

プログラム前半には、文部科学省高等教育局専門教育課長の梅原弘史氏から理系人材育成等に関する高等教育政策の動向や博士人材養成・研究力強化のための施策について、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）の田中義恭氏から令和5年度補正予算事業である高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール事業）における高大連携について講演が行われました。続いて、日本電気株式会社 AI・アナリティクス統括部シニアディレクターの孝忠大輔氏から産業界で求められるDX推進人材について、一般社団法人日本経済団体連合会常務理事の長谷川知子氏から産業界において求められる人材と今後の高等教育に期待することについて講演がありました。



(左から) 梅原氏、田中氏、孝忠氏、長谷川氏による講演の様子

プログラム後半には、新たな時代のニーズに応じた学部学科の開設や女子学生増を含めた近年の大学改革の取り組みに関する事例発表が行われ、京都橘大学副学長の阪本崇氏からは工学部（情報工学科）設置の背景や設置準備、横浜市立大学データサイエンス学部長の山崎真見氏からはデータサイエンス学部の設置構想検討から卒業生輩出まで、芝浦工業大学システム理工学部長の澤田英行氏からはシステム理工学部における学科制から課程制への移行や女子学生増の取組について、それぞれ発表がありました。



(左から) 阪本氏、山崎氏、澤田氏による事例発表の様子

その後、事例発表を行った大学ごとに三つの会場に分かれて行われたラウンドテーブルでは、事例発表に関するより詳細な説明が各大学からあり、参加者から寄せられた質問への回答を交えながら活発な意見交換が行われました。最後に、大学・高専機能強化支援事業選定委員会委員から総括コメントが述べられ、盛況のうちに閉会しました。



ラウンドテーブルの様子

当日の各登壇者の発表資料及び音声付きスライド動画は、当機構の[ウェブサイト](#)に掲載しています。

○ 土屋前研究開発部長に名誉教授の称号を授与

2月28日（水）に、当機構の竹橋オフィスで名誉教授称号授与式を挙行し、土屋俊・前研究開発部長に名誉教授の称号が授与されました。

土屋前研究開発部長は、平成23年4月に研究開発部教授に就任後、令和5年3月まで在職し、平成30年4月から令和4年3月まで大学ポートレートセンター長、令和2年10月から令和5年3月まで研究開発部長を務められ、機構の事業、調査研究など多岐に渡る分野に寄与されました。

名誉教授称号授与式では、福田機構長から称号記が授与されたのちに、在任中の当機構への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

また、式典後に川口昭彦名誉教授、岡本和夫参与・名誉教授、長谷川壽一参与・名誉教授をお招きし、懇談会を開催しました。懇談会では、高等教育に係る様々なトピックについて、活発な意見交換が行われました。

【参考】当機構の名誉教授

称号授与年度	氏名
平成 9年	黒羽亮一、平則夫
平成 10年	田中郁三
平成 14年	齋藤安俊
平成 16年	小野嘉夫
平成 21年	木村孟、荒船次郎
平成 24年	平野眞一、神谷武志
平成 25年	荻上紘一
平成 26年	川口昭彦、木村靖二、橋本弘信、瀧田佳子
平成 27年	河野通方
平成 28年	野上智行、中原一彦、鈴木賢次郎、毛利尚武、館昭
平成 30年	岡本和夫、武市正人、六車正章、越光男
令和 4年	長谷川壽一、菊池和朗



列席者との記念撮影

（左から、絹笠理事、土屋前研究開発部長、福田機構長、光石理事）

調査研究

○ 研究開発部新任教員紹介

国枝 正典 特任教授



2月1日付で研究開発部に着任し、学位授与の仕事を担当することになりました。採用に当たり、多くの皆様にお世話になりました。着任後は慣れないことばかりで、教職員の皆様がとても親切に

教えて下さり大変感謝しております。

昨年3月に東京大学工学系研究科精密工学専攻を定年退職しました。東大での在職期間は13年間でしたが、2010年までは24年間、JR中央線東小金井駅の東京農工大学工学部に勤めておりました。ですから、小金井公園や玉川上水など、とても懐かしく思います。この機構のキャンパスも、私が学生のころは一橋大学の小平分校でしたので、何度か所属運動部の試合のために来たことがあります。環境もよく静かで、落ち着いて仕事ができそうです。

研究分野は理事の光石 衛先生と同じ生産工学であり、その中でも放電加工や電解加工といった特殊加工が専門です。切削加工や研削加工では加工が困難な、硬い材料や複雑形状を、精度良く加工する技術で、金型の加工、航空機部品の加工、医療精密部品などの加工に広く使用されています。機構のOBに毛利尚武先生がいらっしゃいますが、まったく同じ分野です。

このような専門ですので、東京農工大学では工学部付属の機械工場、東大でも学科の工作室の管理を任せられ、工作機械を用いた研究装置の受託加工、学生のものづくり実習、ロボコンやフォーミュラカーなどの学生サークルの支援、教職員のOJTなどに協力をしてきました。自分の研究も、計算よりは、

実験中心でしたので、学生時代から退職するまで、大学では作業服を着ていました。ですから、機構の建物で、作業服を着ている人物を見かけたら、私だと思ってください。

東京農工大学は高専からの3年次編入生が多く、修士から入学する高専専攻科学生も多くいました。私の研究室のOBにもたくさんいます。また、私の研究室出身で、都立産業技術高専の教授が2名おりますので、高専の教育研究には応援したい気持ちがいっぱいです。兼業で、研究費の助成や研究表彰を行っている財団のお手伝いをしていますが、高専の先生や学生さんにはひいき目になってしまいます。また、防衛大学校は横須賀のキャンパスに学生時代、試合に行ったことがありますし、学会でも防衛大学校の先生がご活躍なさっています。職業能力開発総合大学校の先生もたくさん存じ上げています。

このような教育機関に所属する学生さんだけでなく、医療機関や企業の方に学位を授ける仕事はたいへん大切な仕事であると感じています。若いときに米国の大学で在外研究していたときに、米国では学部と同じ大学院に入る例も少なければ、大学院には一度就職してから戻ってくるケースの方が多いいことを知りました。このような多様性が日本でも進んでいくものと思います。新聞を見ていても、リスキングに関する情報にこと欠かない毎日です。外国人労働者も増えて、国際化も進むでしょうから、機構の出番がますます増していくような感じが、素人目にはいたします。

着任して日も浅いのですが、厳密な審査の場に陪席させていただき、教職員の皆様が大変なご努力をなさっているのが少しずつ理解できてきました。自分のせまい研究分野を考えると、審査分野がとても

広いですし、担当する審査の負荷がどれくらいなのか、とても不安です。早くお役に立てるようになりたいと思いますので、いろいろとご指導をいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

くにえだ まさのり 工学博士（東京大学）
令和5年3月まで 東京大学工学系研究科教授
令和6年2月から 本機構研究開発部特任教授

質保証連携

○「国立大学附属病院経営分析ワークショップ」を開催

診療報酬改定や提供する医療サービスの高度化、働き方改革による医師の勤務時間の抑制等、社会経済情勢が変化する中で、国立大学附属病院の事業継続のためには、中長期的視点に立った病院経営の重要性が高まっており、病院経営に関する戦略の企画立案に寄与できる職員の養成が喫緊の課題となっています。

当機構は、このような課題意識を踏まえ、国立大学附属病院の人材養成に係る支援として、病院事務職員を対象として病院に関する様々なエビデンスに基づく経営分析と中長期の財務計画の立案・実行・チェックを行う能力の習得を図るべく、令和5年11月21日から22日にかけて、「国立大学附属病院経営分析ワークショップ」を集合とウェブ配信のハイブリッドで開催しました。（全国国立大学病院事務部長会議総務委員会と共催）

ワークショップには、全体で37大学から代表参加者（事前課題・会場でのグループワークのいずれにも参加）72名、その他参加者（事前課題に取り組み、成果発表・総括はウェブ会議で傍聴）100名、合計172名の参加がありました。

ワークショップ終了後の参加者アンケートにおいては、「グループワークを通して他大学の取り組み事例などを意見交換できたことは非常に良かった」、「大学病院の経営について、各大学がどのように取り組んでいるか知ることができて、今後の自大学で経営改善に取り組んでいく上での参考となった。」等の意見をいただきました。



【グループワーク】



【成果発表】

○「病院経営次世代リーダー養成塾」を開催

当機構は、次世代の病院執行部を担う人材の育成を目的として、医師やメディカルスタッフを対象とした「病院経営次世代リーダー養成塾」を隔年で開催しています。病院経営に関する基礎的知識及び国立大学病院を取り巻く課題に対応する際に役立つ実践的な知識の習得を支援するため、病院の未来を探る特別講演とパネルディスカッションを令和6年2月15日（木）にオンラインウェビナー形式で実施しました（一般社団法人国立大学病院長会議と共催）。

本研修の実施に先立ち、国立大学病院の財務・経営の基礎を学習できる講義動画を配信しました。当日は井上貴裕千葉大学医学部附属病院副院長／病院経営管理学研究センター長が様々なデータに基づき「病院経営次世代リーダーに求められること」と題した特別講演を行い、続くパネルディスカッションでは、以下の7名のパネリストが「持続的な病院経営の構築」について、率直で活発な議論を交わしました。

○パネルディスカッション（登壇者）

国立大学病院長会議会長／千葉大学医学部附属病院長

筑波大学附属病院長

香川大学医学部附属病院長

千葉大学医学部附属病院副院長／病院経営管理学研究センター長

文部科学省高等教育局 医学教育課長

厚生労働省医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室長

有限責任監査法人トーマツ 公認会計士

横手 幸太郎 氏

原 晃 氏

門脇 則光 氏

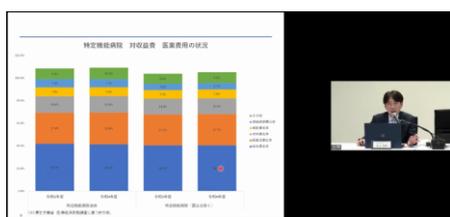
井上 貴裕 氏

俵 幸嗣 氏

松本 晴樹 氏

石井 知浩 氏

本研修には38大学から114名（医師75名、歯科医師4名、看護師23名、薬剤師5名、診療放射線技師4名等）の参加がありました。参加者からは「現場に即した内容でとても分かりやすく、参考になった。」等の意見をいただきました。



特別講演（井上 貴裕 氏）



パネルディスカッション

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

■学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物

○ 令和6年度版『新しい学士への途』及び『学位授与申請書類』の発行等

令和6年度版『新しい学士への途』及び『学位授与申請書類』を発行しました（下記◎印）。このほか、当機構では、学士の学位授与制度及び申請方法等について説明した刊行物を毎年度発行しています。

◎ 『新しい学士への途』

学士の学位授与について、制度の概要、単位の修得方法、「学修成果」の作成方法、申請の手順などを解説したもの

◎ 『学位授与申請書類』

学位授与申請に必要な情報や注意点を記載し、申請書類の各様式をとじたもの

・ 学士をめざそう！

学士の学位授与について、学位取得者の体験談及び学位取得までの流れなどを簡単に説明したリーフレット

・ 機構が授与する学士の学位

当機構が、日本において、大学以外で唯一学位を授与できる機関であることと、当機構が授与する学位について説明したリーフレット

※ 上記の冊子等（学位授与申請書類の一部を除く。）については、[当機構ウェブサイト](#)においてPDFファイル等を公表しています。

※ 学位授与申請にあたっては、申請する年度版の『新しい学士への途』（冊子または[当機構ウェブサイト](#)）及び『学位授与申請書類』（冊子のみ）をご利用ください。その後、インターネットを利用した「電子申請」を行った上で、証明書等の必要書類を郵送（書留）する必要があります。

特例適用の認定を受けた専攻科修了見込みの者については、手続きが異なるため、所属する専攻科に確認してください。

○ 資料の請求方法

(1) テレメール（インターネット）での請求方法

① 以下の方法で  テレメールにアクセスしてください。

スマートフォン・ パソコン・携帯電話	https://telemail.jp/	右の二次元コードからも アクセスできます。 
-----------------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② ご希望の資料の資料請求番号を入力してください。

資料名	部数	資料請求番号	料金 (送料含む)
『新しい学士への途』	1部 (※)	488724	250円
『学位授与申請書類』	1部 (※)	488725	270円
『新しい学士への途』 および 『学位授与申請書類』	1セット	488726	310円
学士をめざそう！	1部	488727	180円
機構が授与する学士の学位	1部	488728	180円

学位授与申請にあたっては申請する年度のものをご利用ください。『新しい学士への途』、『学位授与申請書類』は毎年2月末頃に最新版（翌年度申請用）が発行されます。

※ 5冊以上の複数セットを請求する場合は、当機構ウェブサイトから請求してください。

③ お届け先等の登録を行ってください。

請求方法についてのお問い合わせ

テレメールカスタマーセンター 電話050-8601-0102 (9:30~18:00)

(2) 当機構のウェブサイトからの請求方法

[当機構ウェブサイト](#)からも  テレメールを利用して資料請求できます。

URL https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryuu.html

(トップページ→「学位の授与」→「学位授与申請・試験に関するお知らせ、申請案内等」
→「申請案内書「新しい 学士への途」、「学位授与申請書類」等」ページ下部)

■令和6年度学士の学位授与申請に係る申請方法、受付期間及び試験日等

1 申請方法

申請にあたっては、インターネットを利用した「電子申請」を行った上で、証明書等の必要書類を郵送（書留）する必要があります。電子申請を行うためには、『学位授与申請書類』を必ず冊子で取り寄せなければいけません。

2 受付期間

申請時期	受 付 期 間
4月期申請	○ データ入力 令和6年3月12日（火）～令和6年4月5日（金） （最終日は17時までに送信完了）
	○ 書類送付 令和6年3月29日（金）～令和6年4月5日（金） （最終日は当日消印有効）
	○ 学位審査手数料 払込み 令和6年3月1日（金）～令和6年4月5日（金）
10月期申請	○ データ入力 令和6年9月10日（火）～令和6年10月4日（金） （最終日は17時までに送信完了）
	○ 書類送付 令和6年9月20日（金）～令和6年10月4日（金） （最終日は当日消印有効）
	○ 学位審査手数料 払込み 令和6年9月2日（月）～令和6年10月4日（金）

※データ入力期間の終了間際は、アクセスが集中するためトラブルの発生がしやすくなります。また、お問い合わせの電話もつながりにくくなりますので、スケジュールに余裕をもって申請してください。

※学位審査手数料はATMでの払い込みはできませんので、窓口の営業日・営業時間に注意してください。

申請書類等の送付先	〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課
-----------	-----------------------------------------------------------

3 試験日・試験地区

申請時期	試験の区分	試験地区	試験日
4月期申請	小論文試験 (学修成果としてレポートを提出した者)	東京	令和6年 6月9日(日)
		大阪	
	面接試験 (専攻の区分「音楽」、「美術」、「演劇」のいずれかでレポート以外の学修成果を提出した者)	東京	
10月期申請	小論文試験 (学修成果としてレポートを提出した者)	東京	令和6年 12月15日(日)
		大阪	
	面接試験 (専攻の区分「音楽」、「美術」、「演劇」のいずれかでレポート以外の学修成果を提出した者)	東京	令和6年 12月8日(日)

【お問い合わせ先】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
管理部学位審査課

電話 042-307-1550

FAX 042-307-1555

9:00~12:00 13:00~17:00

(土・日曜、祝日、年末年始を除く。)

■認定専攻科に係る教育の実施状況等の審査について

○ 4校5専攻を「適」と判定

当機構の認定を受けた短期大学及び高等専門学校専攻科は、認定後、原則として5年後に教育の実施状況等の審査を行い、その後は7年ごとに審査を行います。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等の審査結果に基づき、令和6年2月19日(月)開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、短期大学専攻科4校5専攻が「適」と判定され、機構長から専攻科の設置者に通知しました。

<令和5年度教育の実施状況等の審査の結果、「適」と判定された専攻科一覧>

短期大学専攻科(4校5専攻)

	名 称	専 攻	修業 年限	設 置 者
1	桐朋学園芸術短期大学	音楽専攻・演劇専攻	2年	学校法人桐朋学園
2	愛知医療学院短期大学	リハビリテーション科学専攻	1年	学校法人佑愛学園
3	藍野大学短期大学部	地域看護学専攻	1年	学校法人藍野大学
4	大和大学白鳳短期大学部	リハビリテーション学専攻	1年	学校法人西大和学園

■特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査について

○ 14校20専攻を「適」と判定

当機構の特例の適用認定を受けた短期大学及び高等専門学校専攻科は、適用認定の結果の通知日の属する年度の次年度の4月1日から、原則として5年以内に教育の実施状況等の審査を行い、その後は5年ごとに審査を行います。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等の審査結果に基づき、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、短期大学専攻科5校5専攻及び高等専門学校専攻科12校20専攻が「適」と判定され、機構長から専攻科の設置者等に通知しました。

<令和5年度教育の実施状況等の審査の結果、「適」と判定された専攻科一覧>

1 短期大学専攻科（5校5専攻）

	名 称	専 攻	修業 年限	設 置 者
1	大分県立芸術文化短期大学	造形専攻	2年	公立大学法人大分県立芸術文化短期大学
2	聖霊女子短期大学	健康栄養専攻	2年	学校法人聖霊学園
3	日本大学短期大学部	食物栄養専攻	2年	学校法人日本大学
4	湊川短期大学	健康教育専攻	2年	学校法人湊川相野学園
5	別府大学短期大学部	初等教育専攻	2年	学校法人別府大学

2 高等専門学校専攻科（9校15専攻）

	名 称	専 攻	修業 年限	設 置 者
1	釧路工業高等専門学校	建設・生産システム工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		電子情報システム工学専攻		
2	福井工業高等専門学校	生産システム工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		環境システム工学専攻		
3	岐阜工業高等専門学校	先端融合開発専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
4	鈴鹿工業高等専門学校	総合イノベーション工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構

	名 称	専 攻	修業 年限	設 置 者
5	奈良工業高等専門学校	システム創成工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		物質創成工学専攻		
6	米子工業高等専門学校	生産システム工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		物質工学専攻		
		建築学専攻		
7	呉工業高等専門学校	プロジェクトデザイン工学 専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
8	北九州工業高等専門学校	生産デザイン工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
9	大分工業高等専門学校	機械・環境システム工学専攻	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		電気電子情報工学専攻		

機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与関係

■認定課程に係る教育の実施状況等の審査について

○ 審査対象となった1校3課程を「適」と判定

当機構の認定を受けた省庁大学校の課程は、認定後、原則5年ごとに教育の実施状況等についての審査を受けることとされています。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等の審査結果に基づき、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、審査対象となった1校3課程いずれも「適」と判定され、機構長から所管省庁及び各大学校に通知しました。

<令和5年度教育の実施状況等の審査の結果、「適」と判定された省庁大学校の課程一覧>

大学の学部に対応する教育を行う課程（1校2課程）

名 称	課 程	入学 定員	修 業 年限	所 管 省 庁
1 防衛医科大学校	医学教育部医学科	80	6	防衛省
2 防衛医科大学校	医学教育部看護学科	120	4	防衛省

大学院の博士課程に対応する教育を行う課程（1校1課程）

名 称	課 程	入学 定員	修 業 年限	所 管 省 庁
1 防衛医科大学校	医学教育部医学研究科	30	4	防衛省

機構の窓

○ 会議の開催状況

• 学位審査会

第4回 令和6年2月19日（月） 14時00分～14時50分 （ウェブ開催）

議事

- 1 学士、修士及び博士の学位授与の審査の結果について
- 2 認定課程修了者等に係る学士、修士及び博士の学位授与の審査について
- 3 教育の実施状況等の審査の結果について
- 4 特例適用専攻科の変更の届出に係る審査の結果について
- 5 特例適用専攻科における学修総まとめ科目の実施状況等に関する学位審査会意見について
- 6 学位授与事業に関する規則等の一部改正について
- 7 その他

主要行事日程

○ Schedule

3月

	行事名	担当課
1日	国立大学法人等評価実務担当者説明会（東京会場）	国立大学 評価室
8日	国立大学法人等評価実務担当者説明会（大阪会場）	国立大学 評価室
12日～ 4月5日	令和6年度4月期学位授与申請（データ入力）受付期間	学位審査課
上旬	高等専門学校機関別認証評価委員会（第4回：書面審議）	評価支援課
15日	大学改革支援・学位授与機構研究報告会 「これからの大学評価と学位授与に向けて」	研究開発部
中旬	大学機関別認証評価委員会（第3回：書面審議）	評価支援課
中旬	法科大学院認証評価委員会（第3回：書面審議）	評価支援課
19日	令和5年度大学等の質保証人材育成セミナー（第3回）	評価企画課
29日～ 4月5日	令和6年度4月期学位授与申請（書類送付）受付期間	学位審査課

4月

日	行事名	担当課
18日	令和6年度学位審査会専門委員協議会	学位審査課

5月

日	行事名	担当課
17日	学位審査会（令和6年度第1回）	学位審査課
22日	令和6年度 大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第1回）	事業推進課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

